

# 郷土色豊かな伝統の舞、妙技

## 第2回北秋田市民俗芸能大会

（表紙から続く）昨年引き続き、8月26日に開催された第2回大会では、鎌倉時代に起源を持つといわれる綴子の獅子踊りなど、各地区・集落から7団体が出演し、伝統の舞や妙技を満場の観衆の前で披露しました。その様子をご紹介します。

本市には、鷹巣地区から阿仁地区まで、たくさん個性豊かな郷土芸能が伝承されています。しかし、一般には地区の祭典やお盆の時期、集落内で公開されていることから他地区の住民が目にする機会が少ないのが現状。また、後継者不足などの理由から廃れてしまった芸能も多く保存・伝承が課題にもなっています。

上杉大名行列保存会（同）、阿仁前田獅子踊り保存会（森吉地区）、熊野神社餅搗き踊り保存会（同）、根子番楽保存会（阿仁地区）の7団体が出演しました。

オープニングで登場したのは、七日市・上舟木集落に伝えられている、上舟木駒踊り。現在は後継者難から、周辺集落を交えた竜森地区の有志で作る竜森郷土芸能保存会（相馬鉄郎会長）が保存・伝承に努めています。戦国時代、合戦で戦う騎馬の様子を表現したといわれる激しい踊りを子どもと大人、そしてお囃子が一体となって披露し、観衆を素朴で多彩な郷土芸能の世界に引き込みました。

県の無形民俗文化財にも指定されている、阿仁前田獅子踊りは、佐竹義宣公が水戸から秋田へ国替えとなったとき、家臣た



阿仁前田獅子踊り

奴踊りと獅子踊りを披露した綴子大太鼓保存会。躍動感にあふれる下町の獅子踊りは、雄獅子、雌獅子の子獅子探しの所作を演じているといわれています



綴子下町獅子踊り

県民俗無形文化財に指定されている、阿仁前田獅子踊り。獅子踊りのほか、参勤交代を模した行列、駒踊り、棒使いと、一連の演目が披露されました



阿仁前田獅子踊り  
保存会による棒使い

大会は、市内で演じられている芸能を一堂に集めて市民に公開し、民俗芸能への理解と関心を深め、保存・伝承につなげることを目的として始まったもので、第2回公演には、竜森郷土芸能保存会（鷹巣地区）、綴子大太鼓保存会（同）、李岱駒踊り会（合川地区）、

上舟木駒踊り



李岱駒踊り



上杉駒踊り

各地区の駒踊り。駒踊りは、戦国時代の騎馬武者の姿を表現したもので、激しい動きの振り付けが特徴。駒馬（が）が整然と行進する様子、合戦で奮闘する様子などが演じ分けられます

米内沢・横町に約400年前から伝わるユニークな踊り。もとは未婚の男性が女装して踊っていたそうです。踊りで搗かれた餅を食べると、歯痛が止むとか、夏負けしないといわれています



熊野神社餅搗き踊り

ちが考案した道中芸がルーツといわれ、前田集落では若勢たちにより藩政時代の中ごろから継承されてきました。踊りは参勤交代を模した行列から始まり、獅子踊り、奴踊り、駒踊りと続き、締めくくりに、棒使い（ヤチハライ）野次払い）が演じられました。通し公演ではさらに万歳と神楽が披露されることもあるそうです。将来の後継者となる前田小学校の児童も各場面でさっそうと演技を決め、大きな拍手を浴びていました。

このほか、各地区で数百年にわたり脈々と継承されてきた獅子、奴、駒踊りや、国の重要無形民俗文化財に指定されている根子番楽など、普段は集落の外で演じられることの少ない芸能が3時間半にわたり披露され、観衆は懐かしく郷土色豊かな芸能の数々をたっぷり堪能していました。



根子番楽

源氏の遺臣あるいは平家の落人たちが根子集落に移り住んで行われるようになったといわれている芸能。現在では、九つの演目が舞い継がれています。（写真の演目は、曾我兄弟が仇討ちのために修業に努める武士舞の一つ。リズムカルなお囃子に合わせた軽快な動きが特徴）